

中高生海外英語研修 in カナダ



町教育委員会では、次代を担う国際性豊かな青少年を育成することを目的に、北米カナダでの英語研修を実施しています。

本年度は7月29日から8月7日の日程で行われ、17名の中学生と4名の高校生が参加、9日間のホームステイによる実地研修に挑みました。



光の森学園
やまうち しおり
山内 詩織

私は、日本と違う文化を知り、自分の英語に対する自信をつけたいと思い、カナダ研修に参加しました。

この研修では、言葉の壁を乗り越えることが一番大変でした。英語で自分の気持ちを伝えたり、相手を理解したりすることは簡単ではありませんでした。自分の英語力の低さから、まとまりのある英文でやりとりをすることができず、日本の生活や家族が恋しくなり、涙を流すこともありました。

そうした中でも、ホストファミリーは何度も私に話しかけてくれました。また、研修に参加した仲間も私を支えてくれました。

今回の研修では、ただ英語を話すだけではなく、英語を用いて自分からコミュニケーションのアクションを起こすことの大切さを実感しました。研修後半は、自分から英語でホストファミリーと会話を始めることができました。

研修に参加できた感謝の気持ちを忘れず、これからも英語での会話や交流に積極的になりたいです。

私はカナダ研修を通じ、コミュニケーションの大切さを感じました。初めてホストファミリーの方と話した時、私は完璧な英文で話そうとするばかりで上手く伝えることが出来ず、会話を成り立たせることができませんでした。ですが毎日ホストファミリーと話すにつれ、ジェスチャーを使ったり、簡単な英文で質問したりと積極的に会話をすることができるようになりました。朝何時に起きたのか、など簡単な会話をするうちに話すことが楽しくなりました。ジェスチャーなどを使ってどうにかして伝えようすると相手も何を伝えようとしているのか考えて受けとめようとしてくれます。何かを伝えることができた時、とても嬉しいです。そして一緒に過ごす時間がとても楽しくなりました。会話を楽しいむことで、自信を持つて話すことが出来ると気がきました。失敗を恐れて何もしないより、どうにかして伝えようとするのが大切だと思いました。

この研修を活かし、これからは自信を持って英語で話したいです。また、どんな方でも会話をし、伝わらなくてもまずはこの研修で身につけたジェスチャーなどを使い伝えようとしてみようと思います。



三ツ星学園
さかもと こころ
坂本 心優



川根高校2年
まつなが さ
松永 紗良

私がカナダ研修に参加した理由は、移民大国であるカナダにはどのような人々がどのような暮らしをしているのかを学びたかったからです。また、英語力の向上とコミュニケーション能力を身につけたいと思い参加しました。

到着する前までは、ホストファミリーの方とちゃんと仲良くできるか、快く受け入れてもらえるのかが不安でしたが、着いてみるとホストファミリーの方々は温かく歓迎してくれて、ジェスチャーを使い易い英語で話しかけてくれました。そのおかげで不安も無くなり安心して会話を楽しむことが出来ました。

実際に研修に行ってみて苦労したことは文化の違いです。

カナダは日没の時間が遅いので、夜遅くまで起きている日が多く、日本で整えた生活リズムが崩れてしまい、カナダの生活に慣れるのに少し苦労しました。

しかし、研修を通して得たことも多くあり、なかでも英語力とコミュニケーション能力が一番成長を感じられました。

これらは試験の時や新しい環境に馴染む時に役に立つと思うので、今回のカナダ研修での貴重な経験を無駄にしないようにしっかりと活かしていきたいです。



三ツ星学園教諭(引率)
あかほり あかね
赤堀 丹音

海外研修では、「多様性や違いを認め尊敬し合うこと」の大切さを学んだ。カナダは、移民の国であり、言語、文化、宗教、習慣等が異なる人々で構成されている国である。実際に、私がコミュニケーションを取った方々は、フィリピン、イングランド、タイ、中国、韓国、台湾、インド、アメリカなどといった様々なバックグラウンドを持っていた。

そんな人々とお話をする中で、「他者との違いを認める」「違いを尊敬する」という考え方が、多くの人に共通しているということを強く感じた。例えば、公園でスポーツをしていると、近くにいた小学生の男の子やその周りの家族も引き連れてみんなで遊び始めたり、ピクニック時に両国の伝統料理を持参し賞賛し合ったりする姿が見られた。それぞれの違いを「個性」と捉え、尊敬し、大切にしていることがとても素敵だと感じた。

このように、世界中の異なった文化や言語、宗教などを持った方々と「コミュニケーション」を取った経験が、私の価値観や考え方をさらに広げ、英語だけでなく世界中の人・もの・ことについて、実際に見たり聞いたり、学びたい、という好奇心を強く揺さぶられた。この貴重な経験を学校現場だけでなく、広い視野を持った今後の生活に生かしていきたい。



光の森学園教諭(引率)
せりざわ ゆう た ろ う
芹澤 佑太郎

夏の高校野球で快進撃を続けた島根県立大社高校。石飛監督は試合後のインタビューでこう述べています。「目標に対して現在地がどこで、何が足りなくて、これからどうしていけばいいのかがそれを主体的に考えて、行動すること」カナダ研修は、英語面や生活面において、自分の現在地を知る大きなきっかけとなったことでしょう。石飛監督の言うように、足りないことだけでなく、やりたいと感じたことも、私たち引率者を含め参加した全員が行動に移していくことまでが研修だと考えています。

カナダに行ったという「体験」を今後の生活に生かすことで、それが「経験」に変わっていくはず。参加者全員の今後の主体的な行動に期待しています。最後になりますが、生徒にとって有意義な研修の機会をいただき、感謝いたします。本当にありがとうございました。





グローバル人材育成研修 (インド ICT 研修)

8月1日～11日の11日間、川根高校生5名がインドのチェンナイでグローバル人材育成研修を行いました。この研修は、町内にサテライトオフィスを持つゾーホージャパン(株)と連携し、インド本社内にあるZohoschoolsで研修を行い、国際的視野を持つ人材を育て、将来の就学に対し効果的な経験となることを目的に開催しました。



なゼインドに行ったのか。そこに機会があったからに他ならない。できることには手を伸ばしてみろという主義のもと今回の研修に参加した。

心配事が何も起こらなかったことに最も驚いた。拍子抜けと言ってもいいかもしれない。迷子にならないだろうかと、ぼつたくらい。誰とも話せなかったらどうしよう。それらは全て杞憂であった。もちろん小さな問題が一つもなかったわけではないが、この結果は私がもたらしたものである。素晴らしい環境によるものだ。手厚いサポートに感謝を。

たくさんさんのことを学んできた。写真の加工技術、プログラミング、またサリーの着方から私の口にココナッツは合わないということも。クラクションはどうやらポジティブな意味で鳴らしていること、カレーの後のヨーグルトはなかなか救世主であること。

とても、とても楽しかった。充実していて、時間が足早に過ぎてしまったことだけが残念だ。これからこの11日間を何度も思い出すことは想像に難くない。

私がインドでの研修に参加した理由は、日本とは全く異なる環境での交流を通じて、新しい視点を得ることでした。特に、普段はあまり触れない異文化に身を置くことで、自分の価値観を再評価し、視野を広げたいと思いました。

しかし、研修中には多くの困難も経験しました。特に、英語で自分の意見を伝えることが難しく、言葉の壁がコミュニケーションの大きな障害になりました。それでも、相手の反応に対する適切な対応や効果的な話し方のスキルを学ぶことができました。



川根高校2年
あんなか さら
安仲 咲笑



川根高校2年
かとう きゅうたろう
加藤 久太郎

また、ICT (情報通信技術) への興味も深まりました。これを活用して世界とつと繋がり、自身の探究や英語学習に生かしていきたいと思っています。さらに、インドでできた友人と積極的に会話し、日本の文化を教えたリインドの文化を教えるもったりするとともに、英語力も身につけていきたいです。

また、週末はチェンナイ市内を観光しました。鳴り止まぬクラクション、縦横無尽に走るバイク、人がひしめく旧市街、そしてスパイシーな料理。インドの活気を肌で感じる事ができました。

生徒たちのほとんどが海外未経験で、慣れない食事や環境に戸惑うこともありました。ただ、十代という多感な時期にインドを体験できたことは、生徒たちの一生の財産になると確信しています。

この度の研修を企画・運営してくださった川根本町役場の皆様およびZohoの皆様に、厚く御礼申し上げます。

Zohoschoolsでの研修は、実に密度の濃いものでした。まずICTに関しては、プログラミング言語「Scratch」、画像編集ツール「Photopia」、プレゼンテーションソフト「Zohoshow」などの使い方を学びました。初めて触れるソフトばかりでしたが、講師の方が丁寧にレクチャーしてくださり、生徒たち自身で作品を仕上げる事ができました。さらに、折り紙や箸の使い方をschoolsの学生に教えたり、インドの民族衣装のサリーやドゥーティを試着したり、日印両国の歌やダンスを一緒に練習したりと、文化交流の場もたくさん設けていただきました。



川根高校教諭(引率)
すぎやま かずし
杉山 和志

Q1: 今回の研修に参加した目的は？

インド



カナダ



●海外研修ということで、多くの生徒が「語学力の上達」を目指して参加しました。

また、英語圏のカナダ研修に参加した生徒は、会話を通した「コミュニケーション能力の向上」を目指し、インド研修に参加した生徒は「積極性の向上」を目指して参加を考えたようです。

Q2: 研修の成果を感じることは？

インド



カナダ

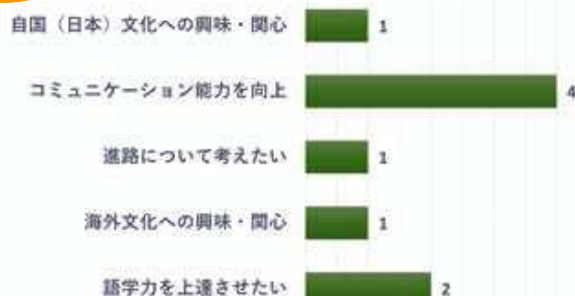


●異文化での生活は「コミュニケーション能力」を促進します。

今回はインド・カナダの参加生徒全員が「コミュニケーション能力の向上」を成果として実感し、続いて「語学力の上達」を感じた生徒が多いということが分かりました。

Q3: 研修を通して強くなった思いは？

インド



カナダ



●研修参加前は、「語学力の上達」を目的にした生徒が多い結果でしたが、研修を終えたあとでは、「コミュニケーション能力の向上」を考える生徒が多いことが分かりました。

今回の研修での講義は全て英語で行われたことから、コミュニケーションにおける言葉の大切さを学ぶ事や積極性を見つめ直した2週間だったのではないのでしょうか。

